

ろ

ろお (どお) (櫓) 【名詞】 和船に用いられる人力に依る推進用器具 腕と脚 (楯) の二部からなり、腕には柄 (つく) 脚には入子 (いれこ) を設けて居る。船を漕ぐ時は船尾又は船側に設けられた横梁 (櫓床) に設けられた、へその上に入子をはめ、腕の柄を麻綱で船床に継ぎ漕ぎ手は腕の末端を持ち前後に動かす。(三、鈴郡、鈴市、一、松、阿、張、名、度、伊、北、尾) [会話] ロオ 漕ぐ、どお (櫓) 漕ぎかい (ですか)。ロオ 言わんと (言わずに) どお言う人もよけ (沢山) おんなあ (居ます) ロオ言わんと (言わずに) どお漕ぐ言うて、だら、どろ、でれ よお言わん (言えない) 人な (が) おんねてや (居るのです)。ろおそくでも どおそく言うて、そやよって (だから) 角屋言うの (のを) よお言わんで (言えなくて) かろやのうろん、ろっばい食べて、腹ろっかりした 言うて。“ど”を よお使わんで (使えなくて)。ろこい 行くんじよ言うて、何処い (へ) 行くんど (行くのか) 言うのを。廊下でも どおか言うて どおかも掃いたら、拭いとかな (ておかなければ) はざん (駄目だ)。牢屋の事 どおや。

ろおおす 1) 櫓を漕ぐ。2) 居眠りする。

ろおがい (ろうがい、らうがい) (労咳) 【名詞】 肺結核咳を発して体次第に労る (よわる)。(度) [会話] 結核の事をなあ、肺病を、ロオガイや (だ) 言うて。よお (よく) 時代もん (物) すると ロオガイや (だ) 言うて おやまさん (女郎) な (が) よけ (沢山) 客とって 体しもて (こわして) ロオガイに、皆、なつてなあ。

ろおぐ 【名詞】 道具 どうぐの訛 (鳥 (坂手)) [会話] 道具言うの どろ、だら、でれ、よお言わん (言えない)。ロオグ言う人な (が) あんねてや (有るのです)。道具言うのな (が) ほんとやけど (本当だが) ロオグ言う人な (が) あんね (有るのです)。

ろおぐい 【名詞】 和船の櫓を漕ぐ時、舟の櫓を置くおきぎ (置座) についている突起、櫓の入子に合わせるろぐい 櫓枕 (志 (立神、国府)) [会話] ろお漕ぐおきぎへ ちんぼみたよん (のように) 立つとるやんない (立っているでしょう) あれを ロオガイや (だ) 言うてなあ。それい 入れん (る) のを いれこ おきぎ言うと ちんぼ立てるのおで (ので) それい (に) 穴な (が) あいとてなあ (あいていて) ロオ

ガイさすね (のです)。いれこ 言うと ろおん (櫓に) 付いとる (ている) 櫓のきい (木) の のおを (のを) いれこ。稽古すんのん (するの)に いれこい (へ) よお入れんで (入れれなくて)、入れてくれ (下さい) 言うて 入れてもおて (もらって) おってかん よおん (落ちていかにないように) 押さえといて (ておいて) くれえ 言うて 押さえて もおて (貰って)。

ろおこ 【名詞】 銅壺

ろおこぎぶね 【名詞】 推進力を櫓に頼る舟。

ろおそく (らうそく) 【名詞】 まるそうだ そうだがつお サバ科の海魚 全長 30~40cm 体形は鰹に似る。まるそうだの横断面は丸い。(志 (鶴方、立神)、鳥)

ろおのすそ 【名詞】 櫓の水中に入るところ 推進力の源になる [会話] ロオノスソ言うな (のは) どお ふたあつ (二つ) にしとるやんない (して居るでしょう) 腕と裾となあ (です) 腕言うな (のは) 三分の一位で 三分の二は 裾やわい (です)。腕いは (へ)は つくな (が) 付いて 腕で、裾な (が) からげてある やんかい (束ねて有ります)。そやもんで (それで) 腕もよおなけなはざんけど (よくなければいけないが) 裾の方な (が) ちよいと、いがんどたりすと (少し歪んで居ると) 水掻きな (が) わりんやんかい (悪いのです)。そやもんで 漕ぎのくいし 舟もおっそいの なあ (遅いのです)。

ろおや (ろうや らうや) 【名詞】 牢屋 囚人を入れておく所 牢 [会話] ロオヤ、監獄。監獄の事 ロオヤ や (だ) 言うてなあ、ロオやい (へ) 放り込まれた 言うてなあ。

ろかい (櫓櫃) 【名詞】 舟の両側に有り、櫓、櫓を操る所。どかい参照

ろかいぶた (櫓櫃蓋) 【名詞】 ろかいの穴にする蓋 どかいぶた参照

ろかた 【名詞】 土方 (志、鳥 (答志))

ろく 【名詞】 1) 毒 どくの訛 (鳥 (坂手)) 2) 梅毒

ろくがつひまち 【名詞】 六月に行われる会食 [会話] ロクガツヒマチや (だ) 言うて、三月と五月と六月と みいくら (三回) ひまち すんの (するのです)。三月 ひまち言うて 三月の節句ん (に) 祝うやんない (でしょう) その時も ひまちしてなあ、五月もしてなあ、六月は、ごさいやもんで (なので) みいくらあつ (三度) すんね (するのです) ひまちを、海女さんなあ

三月と五月と六月とみいくら (三度) すんの (するの
です)

ろくしちいわいい 【名詞】 六七祝 四十二才の厄年を言
う。(伊)

ろくしゃく (六尺) 【名詞】 禪 (南)

ろくすつぽ (どくすつぽ) 【副詞】 下に打ち消し言葉を伴
なって物事を十分になし遂げないさまを表す、十分に
は、ろくには ろく、碌、下に打ち消しの言葉を伴な
って物事の十分でない事 まともでない事 正常で無
い事 満足出来る状態で無い事、又そのさまを表す。
ろくでもないさま。まともでないさま。(志 (浜島、布
施田)、一、久、張、伊、北) [会話] ロクタマに。ロ
クスツポな事な (が) あろかれ (無い)、ええ事 (よい
事) は 滅多ん (に) あろかれ 言うのを ロクスツ
ポな事な (が) あろかれ 言うて、わり (悪い) 事ば
っか (ばかり) しとたら (して居たら) ろくな事あろ
かれ 言うて、ロクスツポも言うたり (言ったり)。滅
多ん (絶対に) ええ事 は きやせん (来ない) わがと
も (自分も) わり事 に会う そいな (そんな) よおな
事や (です)。ロクスツポな もな (物は) 無いわれ
(有りません) わりもんばっか で (悪い物ばかり) 言
うて、しなもん (品物) な (が) 悪りと こや (此れ
は) 屑ばっかや (ばかりだ) ロクタマなもな (物は)
無いわれ とか、ロクスツポなもな 無いわれ とか
言うて、しなもん (品物) な (が) わりとさいご (悪
い時に)、にげ (人間) でも あやなあ (彼は) ロクス
ツポなもん (者) やろかれ (でない) 言うて。わり事
ばっか (ばかり) して あんな (彼は) ろくな事あろ
かれ (無い) 言うて。

ろくたま (どくたま) 【副詞】 ろくすつぽに同じ 充分に
満足に ろくすつぽ参照 (熊、南)

ろくたまに 【副詞】 完全に 人並みに ろくすつぽ参照
(鳥)

ろくでなし 【名詞】 能力の無い者。役に立たない、のら
くらのもの。道楽者 碌は誤り 陸 (ろく) まともでな
いこと。(鳥、多) [会話] どもならん奴を あやまあ
(彼は) ロクデナシやれ (だ) 言うてな、仕事も な
んも (少しも) しやせん (しない)、博打 打つ、おな
ご (女) する、酒飲む 飲む打つ鍛冶屋で あんなあ
(彼は) ロクデナシやれ (だ) 言うて。

ろくでもない 【形容詞】 悪い とんでもない

ろくな 【形容詞】 まともな 完全な (志 (浜島))

ろくなこと 【名詞】 完全なこと。正しいこと。[会話]
ロクナコトな (が) あろかれ (有るものか) 言うのは、

ええ (よい) 事の無い事をなあ、わり (悪い) 事ばっ
か (ばかり) 続く事を、わり事ばっか しとるもんな
あ (しているから) ロクナコトな (が) あろかれ、ば
ち (罰) な (が) 当って言うて。

ろくなもんやあろかい よいもの (物、者) でない。普
通ではない。

ろくなもんやない よい物 (者) でない。悪い品物又は
人物 (鳥) [会話] なんも (何も) ならんのおを (な
らないのを)、ロクナモンヤナイわれ (です) 言うてな
あ。ぜん (銭) も よお稼がん (稼がない) 働かせん
(ない) ぐちゃぐちゃして そしといておって (そう
して) ぜんつかい (浪費家) で ロクナモンヤ
ナイわ、親の脛 噛って おって (居て) 言うやんか
(言います)。

ろくに 【副詞】 充分なさま。満足に。ろくすつぽ ろく
たまに同じ 語の後ろに必ず否定語が来る。[会話]
ロクニ夜の目も 寝やさんと (寝ささなくて) 言うて、
仕事もせんととかなあ (せずつとかな)。食うもん (物)
もなあ ぜん (銭) ものおて (無くて) ロクニ食わさ
せんねない (食べさせないのだ) 言うたり。まとも
とか 完全にとか言うのを。どじもんぐさ (怠け者)
で 働かんと (ずに) こららに (子供達に) 食うもん
(物) も、ろくたまに よお食わさせんねない (食べ
させないのだ) 言うて、とおさん (父親) な (が) ど
もならん (怠け者) とおさんやと (だと)、こららん
(子供達に) ロクナもんも (十分な物も) よお食わさ
んねない (食べさせないのだ) ぜんかせぎ (金儲け)
よおせんと (出来なくて) あそで (遊んで) ばっか
(ばかり) おって (居て)

ろくぬすつと 【名詞】 禄盗人 働きの悪い人。高給を取
りながらそれに見合う仕事をしない人。出来ない人。

ろくぶ (六部) 【名詞】 山伏姿をした物貰い。

ろくろくつび 【名詞】 ろくろく首

ろくん 【副詞】 ろくに 充分なさま (鳥)

ろこい どこへ 何処へ [会話] ロコイ いくんじよ
(行くのか) 言うて、何処い (へ) 行くんど (行くの
か) 言うのを

ろごい。ろごえ 【名詞】 櫓を漕ぐ時の掛け声 [会話]
〇〇 言う人な (が) 櫓 漕んでも (漕いでも) なつ
とも (なんにも) 言わんと (言わずに) 漕ぐもんで
(ので) 〇〇 ロゴエもせんか (しなさい) 言う
そんなら (それでは) やん 言うて。

ろじまき 【名詞】 畑へ種を直接播く事。[会話] ロジマ
キ 言うな (のは) 畑そんなりい (そのままへ) まく

のを、ロジマキヤ (だ) とか、ろじもんヤ (だ) 言うやんない (言うでしょう)。

ろじもん【名詞】露路物 温室物に対し野天で取れる農作物 [会話] なんやかや (種々) 苗 おろしても畑い べたんすると ロジモンヤ よって (だから) こや (これは) ええわれ (よろしい) 言うけどなあ。ろじい (へ) おろして (植えて) あんのを (有るのを)。じべたえ (地面) そんなりい (そのままへ) 播くと ろじまきヤ (だ) 言うてなあ、ろじい (に) 作ったもん (物) を ロジモンヤ 言うてなあ、地播きとか。ハウスも なんも (なにも) せんと (せずに) そんなり (そのまま) すん (する) のを ロジモンヤ 言うて。

ロシヤ【名詞】ロシア (鈴市、伊)

ろづか【名詞】櫓につく小さな突起物。早緒をかける。

ろっかり【形容詞】どっかり。沢山の様。

ロップ【名詞】まにら麻 まおらん (三重県)

ろっぱ【名詞】六本 (度、伊) [会話] ロップのかしん (菓子) むつかしねなあ (のだ) 言うて。気難し人をなあ あや (彼は) ロップのかしん (菓子) やれ (だ) 難して 言うて。六本言うのを ロップヤ (だ) 言う。

ろのうで【名詞】櫓の上部 水中に入らず手で操作する部分 (鈴市) [会話] ロノウデで、つくな (が) 付いとる (ている) とこなあ (所です)、こお持つやんない (でしょう) あしこ (あすこ) を ロノウデで、そして つくから 互いで (交互で) しばってある (くくってある) 下は、ろおの裾 櫓裾ヤ (だ) 言うてなあ。あれは櫓のきい (木) やなけな (でなければ) はざんし (いけないし) ロオノウデは 椎でも なんでも (何でも) ええんけど (よいのだが) 裾は櫓やなけな はざん (駄目です)、いれこも櫓 かつたい (堅い) もん (物) せな (しなければ) じっきん (すぐに) あばあばん (ごそごそに) なつてくやんない (なつて行くでしょう)

ろはぜ【名詞】漆の木 はぜの木 やまうるし ウルシ科の落葉小高木。高さ3m位 葉は枝先に集まり傘状に開く。奇数羽状複葉で13~17ヶの小葉に分れ小葉は随円形で長さ5~10cm雌雄異様。夏、葉腋に多数の黄緑色の小さな五弁花を密集した円錐花房を出す。果実は経8mm位の核果で扁球形で粗毛を密生する。漆液を少量出す。はぜのき ウルシ科の落葉高木。高さ10m経60cmに達す。葉は奇数羽状複葉で7~15枚の小葉からなり、枝先に密に互生し秋に紅葉す

る。雌雄異様。初夏葉腋から長さ約10cmの円錐花序を下垂し、小さな黄緑色の五弁花が群がって咲く果実は経約1cmの随円形で白く熟す。(志、鳥) [会話] ロハゼ 言うな (のは) きい (木)。かぶれのきい かぶれのきい を ロハゼ 言うんやんかい (言うのです)

ろばね【名詞】櫓の水に入る所。櫓の裾

ろびよおし (ろびょうし ろびやうし) (櫓拍子)【名詞】櫓を漕ぐ拍子

ろべそ (櫓脚)【名詞】櫓杭 櫓を漕ぐ時、櫓に有る孔に入れる小さな突起。(鳥) [会話] ロベソ どおぐい (櫓杭) の事を ロベソ。ちんぼヤ (だ) 言うの (のです)。ちんぼな (が) へしよれてた (折れていった) 言うてな、どおぐいな (が) へしよれてくと (折れて行く) ちんぼな (が) へしよれてた (折れていった) 代えてくれえ (下さい) 言うてなあ ろおぐい の事を。

ろまくら【名詞】櫓を固定するもの